

材料を扱つたお話といふので本當に觀察ではない。これで幼稚園の觀察が出来るといふのは大いに誤りであらうと思ふ。お話の内容が所謂童話でなく空想の要素がなく事實であるといふのみと考へてもよいのであらう。

又繪や寫眞をみせる事がある。これは本當の意味の觀察からいへば邪道であると言つてはすぎるかも知れないがまあ本當の觀察とは言へない。みせたいが實物を存分にみせるわけにゆかない場合、例へば軍艦、飛行機、汽車などのやうなもの、動物の中で身近にないものなどである。これはし方がないから選ばれたよい繪や寫眞で、話で補ひつゝみせる。しかし機會があればのがさずみるやうにする。飛行機がとんで來たら出てみるし、若し戦車が通つたら出てみるといふやうに、汽車に乗つてどこかへゆくといふ子どもがあればよくみていらつしやいと注意するやうに。しかしどうしても繪でも寫眞でもぜひみせねばならないといふより斯うしたものの關心を深めるやうに導く手段である事を忘れないやうにしたい。

以上で保育項目の觀察の指導についてほんのざつと書いてみたがまことに不備で、盡せなくて考へ足りない點のみであるが、これで全部といふわけでは勿論ないので、

## 自由遊びの指導

志村貞子

幼児の生活は遊びの中に精一ぱい發揮される。遊びの中に幼児の精魂が傾倒され、遊びに於て幼児の心身の發達が培はれてゆく。従つて保育に於ても自由遊びを基底としてよろ／＼の保育計畫が立てられるのである。

自由遊びとは幼児が自發的に自由に遊ぶことであるが、保育者の側からいへば、この間と幼児をその欲するところに任せて自由に氣儘に遊ばせておいて顧ないといふことであつてはならない。この自由遊びを適當に指導することによつてはじめて、幼兒の生活力を正しく存分に發揮せしめ、自由遊びをして保育の基底たらしめ得るのである。

研究しつゝどこまでも子どもと一しよに學ぶといふよりむしろ子どもの方から教へられ乍らやつてゆきたいと思ふ。

従つて、自由遊びの指導にあつては、先づ保育者自身の幼兒の生活に對する深い理解と、自由遊びへの認識が必要なのである。

自由遊びは幼兒自身の發意による遊びであるが自發的といつても、種々の遊具の力に俟つ場合が多いのである。従つて自由遊びには遊具が一つの重要な役目をもつて入つてくるわけである。滑り臺、ぶらんこ、杵登り、砂場、積木、人形、ま／＼こ道具、繪本類をはじめとして一枚の紙片、木片、繩等から種々の自然物にいたるまで、すべて幼兒にとつてよい遊び友達である。したがつてこれ等のものを幼兒の年齢、性情、能力に應じて適當に用意し、幼兒の遊び相

手として充分親しませることである。尤も現今はこれらの資材が不足して來てゐることとは勿論で、新しく設備を整へるのは容易なことではないと思ふが、幼児にとつてのよい遊び相手は既製の高價な設備や遊具に限らず、むしろ創造性、工夫性に富んだものが喜ばれもし、また希ましいのである。保育者はこの非常の機會に、大いに工夫を練つて幼児と共に創造の喜びを味ふのもまたよいではないか。かくて遊具が幼児の生活に適合し、よい相手として與へられると幼兒はこれらの遊具を機縁として種々の遊びを活潑に展開させるのであるが、保育者の側からいへば、この際、遊びの中に、種々の適切な生活訓練、躰をなし、幼兒の好ましい心身發達への指導が積極的になされなければならぬのである、そしてまた、かかる幼兒自身の自然な生活の姿である遊びの中に於て良き生活訓練がなされ、躰られるといふことは、幼兒自身にとつても好ましいことであると思ふのである。

遊具を鄭重に扱ふこと、後片附をすること等は遊びの種類や人数を問はず常になされ得る事柄であるが、年齢もすゝみ、能力

も發達して友達との遊びが活潑に行はれるやうになると、更にその社會の一員としての協同性といふこと、自分のものとしてでなく、皆のものとしての遊具を大切に扱ふこと、少い遊具を交代に仲好くつかふこと、人に譲ること、自制心、忍耐力等々の訓練もなしうるわけである。更にまた子供自身の旺盛な生活力にまかせておくと危険、亂暴に走りやすい遊びを正しい方向に導いて充分に活動させること、遊びの中に清潔の習慣を養ふこと等も保育者として常に心がけねばならない。この爲、保育者は、一部の幼兒と遊んでゐる場合にも、廣く全體の幼兒への注意を怠つてはならない。なほ保育者等は、保育者が一組の幼兒に數人ある場合には、一ヶ所に大人が集つて限られた少數の子供の相手になるといふ事なく、各々が、夫々の幼兒の遊びを指導して、保育者の多いといふ事を意義あらしめたいものである。

斯様に、自由遊びは飽くまで幼兒の發意、發展の力を尊重するとはいへ、幼兒を自由、奔放に放任するのではなく、正しくない欲求、發展は嚴にこれを戒め、幼兒の心身の

發達を正しく直く伸ばすべく保育者の周到な指導が加へられなければならないのである。かくて正しき指導はまた幼兒にとつてもかゝる指導を受ける遊びが自分等にとつて真に愉しき自由遊びである事を自ら悟らしめる筈である。

次に、保育者は幼兒の自發的な遊びに就て適當な指導を與へると共に、新しい遊び方を導き入れてやり、幼兒の遊びの生活を豊かにし變化を與へ、更に發展させる事が考へられる。即ち保育者は幼兒の樂しむ遊びを數多く知つてゐる事、幼兒に應じ時と場所に應じてそれ等を適當な形で與へることが必要となつてくる。

殊に入園當初、新しい生活環境に慣れない爲に遊びの生活に入れぬ幼兒や、或は自由遊びの能力が足りない爲、遊べない幼兒に對して、どんな遊びをどんな方法で誘ふかといふこと、また一つの遊びへの興味を薄くなつた頃遊びに變化を與へて新しい活潑な興味をもつて遊びを繼續させてゆくやうにすること、また幼兒の好む遊びに何か暗示を與へるなり、具體的に手をかすなりして更に一層興味を高調させ、遊びを發

展させてゆくこと等、自由遊びに關聯して保育者の誘導の力に俟つ部分が多いためである。そしてまたこの誘導によつて保育各項目を幼児の遊びの生活と極めて自然に且密接に結びつけ發展させることが出来るのである。例へば肩章や勳章をつくる手技が兵隊ごつこと結びついて幼児自身の興味を以て一層活潑に行はれることや、繩だけの電車ごつことが誘導によつて切符や信號旗がつくられ、さては驛々でおべんたうも賣り出されるといつた工合である。また就學の間近になつた幼児達の間で好んで遊ばれる學校ごつこでは適當な誘導によつて必要な學用品の製作は勿論、唱歌、遊戯、自由畫から幼児に好ましい諸種の躰までが、遊びの中に、一種のおこがれさへもつて、極めて興味深く、自然に行はれるのである。但し保育者の誘導によつて、始められた遊びに於ても、幼児の年齢、性情、能力、並びに時と場所等により適當な時に保育者は幼児に遊びの主役を讓つて幼児中心に遊びを展開させてゆくことが希ましいことは、自由遊びの場合と同様である。

自由遊びは幼児がその生活のあるがまゝ

の形に於て自發的に展開するのであつて、これに適切な指導、誘導を與へる事は以上述べた如く極めて重要な事ではあるが、かかる生活訓練の爲、躰の爲の遊びではないこと、各保育項目との密接な關係もどこまでも自由遊びの誘導としてあつて、項目の内容そのものが主となるのではないことを保育者は心構への中に充分入れておかねばならない。元來が自由遊びである。どこまでも幼児の生活力そのもの、發揮である。

## 防空訓練と幼児

空襲必至といはれてゐる今日では、幼児といへどもそれによる災害をまぬかれることは出来ないものである。隣組の月例防空訓練の如く、幼児もその集團する所に於ては、平素より度重ねて待避、避難等の訓練をなさなければならぬ。幼児の訓練は、要するに、待避等を敏速になす様にし、その間おどしたりして徒に幼児の恐怖心を起させる様なことなく「空襲物かは」の氣持を大人が

遊びが主であり、しかも遊びといふ極めて自然の形の中に於て必要適切な諸種の生活訓練、情操陶冶がなされ得るといふところに自由遊びの盡きざる妙味があるといへるのである。遊びの中の生活訓練、躰等々は保育者の心構へには明確に把握され、それが遊ぶ幼児へは、遊びを通して渾然と自然の形、融和した形に於て與へられる。かくて幼児は生活力を正しく、健やかに、樂しみつゝ存分に發揮するであらう。

## 關 登美子

常に持つてなすべきである。始めの中は、訓練日を決めて、毎月一回とか二回することにし、馴れて來たら不意にすることもよい。(東京都では毎月十九日が防空強化日であるから、附屬幼稚園では十九日に訓練を行ふ。)

防空服裝、

近頃はよく路上でもモンペ姿の可愛い、子供を多く見受ける様になつた。子供が先